翔 とぶ
No.14 10 V, 1980
百万石蝶談会
HYAKUMANGOKU-TYŌDANKAI

石川県のタテハチョウ科

諸道 秀人

石川県に産するタテハチョウ科蝶類は、30種が記録されている。筆者の確認した幼生期は、その中の約半数程度であるが、現在迄(1979年)の知見を述べてみたい。

今後の課題は、他の種の生態の確認を急ぐことであるが、本稿では、推定も含めて、解説してゆきたい。

1. ウラギンスジヒョウモン
2. オオウラギンスジヒョウモン
3. クモガタヒョウモン
4. メスグロヒョウモン
5. ウラギンヒョウモン

以上の五種は、幼生期の確認はしていないが、次種ミドリヒョウモンと同じ生活誌を、持つものと推測される。クモガタヒョウモンは、この中で最も早く幼虫が発生するであろう。

6. ミドリヒョウモン

分布：金沢市に広く分布し、最も個体数が多く、他を完全に圧統している。

食草：スミレ科の各種が食草として使用できるが、自然状態ではタチツボスミレしか食しない。飼育の際、同一の容器内に、タチツボスミレとマルバスミレを入れるとタチツボの方から食べつくす。

幼生期：産卵は、放卵形式をとるため人工採卵は、容易である。越冬態等は、かなり差異があり、発見される幼虫はかなりバラツキがあり、それを裏付ける様に同じ頃に発生する、オオムラサキ・ゴマダラチョウ・ヒオド

シチョウに比較しても、その差は大きい。
幼虫は、平野から山地に自生するタチツボスミレ群落で容易に発見でき、一日で百匹くらいとれる。
天敵としては、ヒメバチとハエが知られている。

7. ギンボシヒョウモン

本種に関しては、まったく資料がない。

8. ツマグロヒョウモン

分布：この蝶は確実に迷蝶であり、1978年の目上旬に金沢市涯2丁目において1♂を確認している。
食草：徳島県阿南市では、ツボスミレに、母蝶が産卵しているのを目撃した。石川県における産卵の可能性等は不明。
幼生期：不明

9. イチモンジチョウ

分布：金沢市に広く分布している。石川県では、次種アサマイチモンジより勢力が強い。
食草：スイカズラ科のスイカズラ、タニウツギであるが、大津市では、タニウツギは食べず、代りにハコネウツギ、キンギンボクを食べる。
幼生期：産卵は、主に葉裏に1卵ずつ行なわれ、幼虫は中脈を残す特異な食痕をつけるので発見はやさしい。
終令では緑色となり、中脈は残さなくなるが初期の体色が褐色で、摂食とともに緑色を増し、完全な緑色の数日後蛹化する性質は、スミナガシ・ゴマダラチョウ・オオミスジ・次種アサマイチモンジと同様である。
秋期に発生する幼虫は、体長5mmで、三角形の巣中で越冬する。
越冬後の幼虫からは、コマユバチが出る。

10. アサマイチモンジ

分布：金沢市に分布することが確実であるが、その個体数は前種イチモンジチョウに比べて少い。しかし大津市上

田上地区の様に、本種のみしか分布しない場所もある。
食草：大津市上田上地区では、人家に栽培されている、ハコネウツギとスイカズラである。
石川県ではハコネウツギはないので詳しい調査が必要であろう。
幼生期：前種とほとんど同じ性質をもつ。

〈食草写真1 スイカズラ〉

1・スイカズラ

写真はスイカズラである。この種はアサマイチモンジ・イチモンジチョウ両種が好んで寄生するので比率の考察をはかってみるのも一つのおもしろい方法である。

11. コミスジ

分布：金沢市を中心に普通である。
食草：マメ科のフジ・クズ・ハギ・ヤブササゲ・ノササゲ・ヤブマメ・ニセアカシア・アカシア・ジャケツイバラ・サイカチ等の他、ニレ科のケヤキのひこばえからも幼虫が得られる。
幼生期：産卵は、葉表に一卵ずつ行なわれ、幼虫は中脈を残すだけでなく、食する葉を枯れさす性質を持ったために幼虫の発見は容易である。
幼虫の尾脚付近の三つの紋は、個体により発現がいろいろで、中には消滅するものもある。時に、白色型が出現する。寄生天敵として、蛹よりハチが脱出する。

〈食草写真2 ハギ〉

キチョウが稀に食し、コミスジの最も好む食草であり、好的な条件の個体には、多数発生する。
写真には、コミスジの終令幼虫が撮られている。

12. ミスジチョウ
13. オオミスジ
14. フタスジチョウ
15. ホシミスジ

以上の四種に関しては、全然見識がないが、大津市坂本駅近くの、イロハモミジ街道では、イロハモミジがミスジチョウの食草となっている。

2・コミスジ幼虫の寄生するハギ

<食草写真3.4.5・シモツケ・コキヤナギ・コデマリ>

3・シモツケ

4・コキヤナギ

シモツケはフタスジチョウや山野でのホシミスジの食草となるものである。

また、栽培種として、コデマリ・ユキヤナギ・シジミバナはフタスジチョウの代用食及びホシミスジの関西地方平地での発生源となっている。

5・コデマリ

16. サカハチチョウ

分布：金沢市内に広く分布するが、一般に夏型より春型の方がよく目につく。

食草：イラクサ科のアカソ・コアカソ・ヤブマオ

幼生期：幼虫は食草の大群落には少く、日陰の孤立木に多く、一本につき2～5頭採集される。常に葉裏に静止する

6. ヤブマオ

が、成虫の数の割に幼虫の数は少い。

<食草写真6・ヤブマオ>

この種は、金沢市ではアカタテハ・サカハチチョウの重要な食草であるが、山地には少い。

17. キタテハ

分布：金沢市内に広く分布する。
食草：アサ科のカナムグラ
幼生期：葉を曲げて巣を作るので発見はやさしいが、内がからである巣も多い。

ワ・カナムグラ

<食草写真7 カナムグラ>

御存じ、キタテハの食草で郊外にも多いので、調べてみる価値がある。

18. ルリタテハ

分布：金沢に広く分布している。
食草：ユリ科のサルトリイバラ・サルマメに多いが、ホトトギス・ユリにも発生する。
幼生期：葉裏に静止し、葉を丸く食べるので発見は、やさしい。
本種はタテハコマユバチの寄生をうける。

〈食草写真8. サルトリイバラ〉

野外や人家の庭に多いユリ科の雑草である。

8・サルトリイバラ

19. ヒオドシチョウ

分布：金沢市に広く分布している。

食草：ニレ科のエノキに多いが、ヤナギ科のシダレヤナギをも食べる。飼育には、各種ヤナギを利用できる。

幼生期：卵は、芽や新葉に100卵ずつぐらい産付され、幼虫は集団で群棲し、食草を丸坊主にする。

20. シータテハ
21. エルタテハ
22. キベリタテハ
23. クジャクタテハ
24. コヒオドシ

これらの種に関しては、白山山系に分布するが詳細は不明

〈食草写真9. ダケカンバ〉

前記の高山性タテハチョウ

9. ダケカンバ

類の主要な食草で、一里野スキー場等にも存在している。

25. ヒメアカタテハ

分布：金沢市内に分布するが、能登に比較すると比較的少い。
食草：キク科のハハコグサ・ヨモギ
幼生期：幼虫は巣を作り内にひそむので発見は容易.

26. アカタテハ

分布：金沢市内に分布
食草：イラクサ科のコアカソ・アカソ・ヤブマオ・ラミー・クサマオ。その食性はサカハチチョウより広い。
幼生期：幼虫は、巣を作り内に潜むのでサカハチチョウより発見しやすい。

27. スミナガシ

分布：平栗・大平沢・粟見・別所・横谷・鶴来町坂尻等
食草：アワブキ科のミヤマホウソ、ところによりアワブキ
幼生期：初令～四令まで中脈を残す性質を持つので発見はやさしい。終令より葉上に静止する性質があらわれる。

28. コムラサキ

分布：金沢市に広範囲に分布するが、1973年7月窪四丁目のヤナギに吸液中のクロコムラサキ1個を確認.
食草：ヤナギ科のキヌヤナギ・シダレヤナギ・ウンリュウヤナギ・カワヤナギ
幼生期：卵はヤナギの小枝・木幹に一個ずつ産付される。幼虫は、弱令では中脈に静止している。終令に近づくにつれ大きな台座を形成する。

29. ゴマダラチョウ

分布：金沢市内に広く分布
食草：ニレ科のエノキ
幼生期：越冬幼虫は、一回脱皮後終令となるが、背中のスジが消滅するのは老熟を意味している。

<食草写真10・11シダレヤナギ・ウンリュウヤナギ>

ヒオドシチョウやコムラサキの食草であるが、カワヤナギに比べ、ヤナギハムシの食害をうけないので幼虫採集には、より好適。

30. オオムラサキ

分布：湯・大平沢・桴見・国見・辰巳等。前種より分布はせまい。

食草：ニレ科のエノキ

幼生期：越冬幼虫は、3月24日頃より木に昇り始めるが、その脱皮は前種より遅く、前種の前蛹期とほぼ等しい。越冬後の幼虫の採集は比較的容易である。

上 シダレヤナギ　　下 ウンリュウヤナギ

以上、石川県産タテハチョウ科30種のうち、現在（1970年）迄に確認した16種を幼生期・食性等について記した。　書き初めにも記

したが、今後の課題は、残りの14種の雄性・幼生期の確認を急ぐことにある。これらの種の県内における観察例等があったら、本誌上に発表されることを希望したい。

《会員の動き》

野中勝氏は、4月27日(日)大日谷、5月3日(土)富士写ヶ岳へ。これ以外の土・日は、金ヶ岳・犀川上流などへカミキリ、オサムシ、イモムシなど不純な目的で出かけた。富士写ヶ岳では、ギフのボロを多数目撃、シャクナゲはまだ早かったという。
その他カミキリの成果は、ヒナルリハナ、キバネ、ニセハムシハナ、ヒメクロトラ、トゲヒゲトラ etc.

5月4日(日)、諸道・嵯峨井の2人組は高岡市石堤～福岡町勝馬寺へオオヒカゲ調査に出かけた。出足好調で2～30の3令～終令幼虫を採集し帰沢した。帰途、嵯峨井の記録した過去の産地(金沢市中尾：未発表)に立寄り、ここでもオオヒカゲ幼虫を採集し、時ならぬオオヒカゲブームを巻きおこした。

5月6日(火)、再び諸道・嵯峨井2人組は、ジロボウエンゴサク・キハダ・トネリコ・アオダモ等を調査しながら湯涌・横谷・刀利ダムへ。湯涌温泉ではウラキンシジミ幼虫を10数頭採集した。

5月11日(日)、金平君は昨年の好成績に気をよくして、富山市原山スキー場へチャマダラセセリを採りに行ったが1♀のみの不成績に終った。

同日、野中カミキリーは、白山市ノ瀬へ。スギタニルリを1♂採集したとか。

以上編集人の耳に入った情報です。おもしろいシャバの動きなどあったら編集人迄、御一報下さい。　―嵯峨井記―

翔　No.14　1980年 5月 10日(土)

発行：金沢市三口新町4－9－34　松井 正人方
　　白万石蝶談会
編集：嵯峨井 淳郎